

銘柄分析レポート：その悪材料は買いか？

1 はじめに

2016年10月14日、北海道を地盤に採卵養鶏場を展開しているホクリヨウ（1384）の決算が発表されました。決算自体は好調だったにもかかわらず、翌営業日に株価は急落します。

高値が続いていた鶏卵相場の反動安を見込み、減収減益の業績予想を出したことが原因でした。

3. 平成29年 8月期の連結業績予想(平成28年 9月 1日～平成29年 8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,488	△6.4	519	△47.6	555	△46.1	354	△50.1	41.96
通期	15,464	△1.4	1,167	△22.0	1,227	△21.0	791	△19.2	93.61

しかし逆張りの長期投資家にとって、この悪材料による株価下落は絶好の投資チャンスでした。同社が慎重な見通しを立てていたほど鶏卵相場は下がりず、平成29年3月期の決算は小幅ながら増収増益を達成できたからです。

決算発表から4カ月ほど底値のボックス圏で推移した株価も、見直し買いにより、再び上昇に転じました。

今回の銘柄分析レポートでは、悪材料により株価の下がった銘柄への投資について検討を加えてみました。

★ホクリヨウ 株価チャート 2016年7月～2017年6月

